LUZ の熊野古道案内

2008 年　9 月　上

9 月 1 日　～　11 日

je2luz.exblog.jp

目次

２００8 年　9 月

9 月　１日　二百十日　防災の日　二百二十日
9 月　２日　隣町・・・地方自治体特別職
9 月　３日　隣町　尾鷲　電源立地
9 月　４日　負の遺産
9 月　５日　熊野灘　第五福竜丸
9 月　６日　幕末の熊野
9 月　７日　熊野市報 9 月号より
9 月　８日　県政だより　みえ
9 月　９日　百年前　熊野市　小学校令
9 月１０日　１５０年ほど前　熊野　大地震など
9 月１１日　二百年ほど前のこのあたり

2008年　09月　01日

熊野の旅　二百十日　防災の日　二百二十日

昨日８月３１日が『二百十日』、そして、今日９月１日は『防災の日』、９月１０日が『二百二十日』と言うことです。

災害を忘れるなと言う日が立て続けにやってきます。

この辺では、本来、９月１日の『関東大震災』の日より、『９月２６日・伊勢湾台風』の日のほうで行事を行った方が良かったはずですが、東京中心の行政ですから仕方無いのでしょうかね。

そのせいか、随分前から、『伊勢湾台風』のことなどすっかり忘れられています。

本当なら、今でも５０代半ばから上の人の記憶には、あの猛烈な『伊勢湾台風』の記憶が無くてはなら無いのですがねえ…

木本町も風上になった松本峠から鬼ヶ城に連なる山に守られた区域を除き、屋根瓦が無事だった家は一軒も無く、本町通りは落ちた瓦で舗装されたような状態でした。

熊野市の駅前は井戸川の氾濫で水浸しになり、駅前にあった製材所から丸太が流れ出し、ゴロゴロ転がっていました。

市役所の前の丸山町では、埋め立てが完了して家が建ったばっかりなのに、一階部分がそっくり水没するほどになりました。

我が家の前の今は国道４２号線になっている部分には、納屋だとか作業小屋だとか小さな家だとかがありましたが、高波によって堤防を越えた波で潰されました。

それでも、木本、井戸の被害は物的被害で済んだのでましな方でしょう。

市内でも甫母町などは人的な被害も出るし、家も瓦では済まず、流失したのです。

人間と言う物は『忘れる』と言う特技があるので、生きていられるし、楽しめるのでしょうが、それにしても忘れっぽい人が多いですね。

私より上で立派な成人だった人でも、ほとんど覚えていないと言う人が多いです。

個人でもこんな状態ですから、二三年すれば資料も書類も焼却処分するような行政が災害など教訓にする訳が無いのです。

作られたシナリオを行事として続けるだけ…

実際の災害の体験も無い『学者・有識者』がもっともらしく言うことだけをありがたく承るのです。

そりゃあそうでしょう…

そういうのは、予算を使って作っていただくのだし、書くのは『大学教授』とか『防災研究家』なんて肩書きがありますからね。

伝承が消えて行く分、防げる被害も防げなくなっています。学習していないのですから、何度でも同じことをやらかしますからね。

まあ、近年では、かなりの所、『人間の作ったものでは太刀打ちできない』と言うことが分かってきたようです。

何万年もかかって、自然と出来上がった地形と言う物をもう少し読まないとねえ…

それにしても、その自然が作り出した地形も急速な気象変動には対応できないよう

ですね。
　『滝のような夕立』はこの辺に物だったのですが、近年はこの辺ではそうしたものが減ってしまい、200Km 以上北に上った名古屋とかもっと北の関東平野で降るようになりましたね。
　そのあたりでは、自然の土地がそれに対応するように、がけが崩れ、川が道筋を変える…等と言う自然の摂理が働けなくなっていますから厄介ですね。
　SF 映画並みに、トップの方ではある程度予測して、都民・国民には内緒で巨大な地下排水路や貯水槽などを作っていますね。
　最近になって公開し始めましたが、あれじゃ足りないからでしょう。

　アメリカではハリケーンで１００万人規模の強制避難だそうです。
　目標にして来た『アメリカ』の偏った一面が見えていますね。
　日本もその後を追っているようです。
　もうすぐ、名古屋岐阜１００万避難、湾岸から江東三区で１００万人避難とか・・・
　いや…SF ではなく現実でしょう。
　全高層ビルの４階は避難場所に空き部屋化、貯水タンクも千人分３日分確保、食料も確保すべし、なんて法律が出来るかもしれませんよ。
　それくらいしないと、広いアメリカじゃないだけに逃げ場も無いでしょう。
　河川や海面から一定の高さに無い地下商店街の建設禁止、基準以下は閉鎖命令・・・

Tags:昭和 モノクロ　池袋東口　　by **je2luz** | 2008-09-01 11:57

2008 年　09 月　02 日

熊野の旅　隣町・・・地方自治体特別職

　地方自治体には職員が沢山居ます。
　正規の職員…『吏員』などと古めかしい呼び方もあります…そのほかに、外から見たら区別の付かない『臨時職』もうろうろしているものです。

正職員でも技能職とか現業職などと言われる、一般職とは違う扱いの職員も居ます。
平の係からはじまって主査・係長補佐・係長・課長補佐・参事・課長・場合によっては部長補佐・部長」局長なんてまあそこそこ理解できるような役付き階段があります。
熊野市などの小さな所ではこれくらいの段階ですが、大きな所や県庁などに行って名刺を貰うとどちらが偉いのか分からないほど役職名があるのも年功序列のお役所ゆえなのです。
定年が昔より延びて居るので、昔の習慣で何年経ったら昇進と言うのを続けようとしたら、役職を考え付くしかなかったからでしょうね。
実に複雑怪奇です。
もっとおかしいのは、小さな役所の小さな課になってくると、役職の人は居るけど部下の係りが居なかったりします。
今流行の『名ばかり管理職』みたいなもので、部下の係りが一人も居ない『係長』なんて…でも、その役職に据えておかないと、配置転換のときに『課長補佐』などに昇進させられないのですよねえ…

役所のトップの方には三役なんて特別な人が居ます。
市長・助役（今は副市長と呼ぶのが流行っているようです）・収入役です。
大体この三役の給料は普通の職員の給料表を適用しないで、そのつど条例で定めるようになっています。
このほかに、今良く出てくる教育委員会の教育長も同様に扱われますね。
この人たちの給料の引き上げ引き下げは議会の議員報酬と抱き合わせで条例改正案が提出されることが多いのです。
提出する側の給料だけをいじるのではなく、審議する議会議員の報酬も同時に出して…と言う事です。
昔は、全国的に定期的に引き上げて行ったものです。民間の給料も上がって言った時代でしたからね。
今から２５年ほど前からは、上げる自治体と据え置く自治体の分かれだし、引き下げにまで及ぶようになってきました。
自治体財政の破綻が表面化してきたからです。
『始まった』のではなく『表面化した』と言うことなのですよ。
始まったのは戦後すぐからで、進行したのは高度成長の末期でしょうね。

この三役とかには給料のほかに退職金があります。
これが難物で、条例ではきちんと定めてはいるのですが、習慣的に『功労金』称して５割加算が常識化している自治体が多かったのです。算出根拠などは表に出さず、ひっそりと提出して…と言う図式がほとんどでしたね。

熊野市では２０年はど前に全国でも二番目と言う長期政権の市長が退職する前に条例改正しました。
その条例には助役・収入役も入ってきます。
改定案に盛り込まれては居なかったのですが、一番の矛盾は、算出根拠の期間が

『年』になっていたことです。『助役』なんてのは市長が交代すると空白になることが多く、長くても３年１１ヶ月とかになるのです。『足掛け』では計算しませんから３年の計算になるということです。
　そこで、割と新しいところもやっている月割計算方式に書き換えてしまいました。
　さらに、５割とか１０割加算の根拠になる条項の書き換えをやりました。
　『なお、功労によりこの算出された金額に加算することを得るものとする』などと言うような文言です。
　ばっさり削ると言うと総務課長などは自分の財布じゃないし親方の財布に関わるので難色を示しましたね。
　しからばと言うので、実際は実施不能なのですが、『減額』の文言をねじ込みました。
　『なお、業績により、算出した金額を増額、もしくは減額することが出来る』とすることで、『普通の市長では加算はありませんよ』と宣言したのです。
　さらに、連続当選すると貯め置いた退職金も各期ごとに支給するようにしていきなり巨額の負担がこないようにもしておきました。役所と言うのは積み立てなんてしませんからね。

　この改定が適用されるのはその、８期３２年努めた市長の退職の時でした。
　改定交渉の過程で、その長期政権市長も『加算金など要らんぞ…長い間働かせてもらっただけで十分じゃ…先も長くないしにゃあ…』と言っていました。
　退職金の金額算定と予算提出は当然次の市長です。
　やりにくかったと思います。
　ほとんど全部の市では加算して支給しているのに、全国でも二番目と言う長期政権を樹立した大市長の退職金を加算ゼロにするというのはねえ…
　しかし、条例改訂して直後でもあり、経緯も分かっていたので『加算ゼロ』の物でした。
　そして、そのゼロ加算予算を出した市長も一期ごとに退職金の支給を受け、二期を努めてやめられました。
　当然、『ゼロ加算』でした。
　これからも、よほどずうずうしい、もしくは熊野市が黒字になって生まれ変わるような奇跡を起す市長以外は『ゼロ加算』が続くでしょうね。
　まあ、全国的にも無条件加算を行っている所は減っているでしょうけどね。

　隣りの尾鷲市では、この退職金を『完全にゼロ』にしようと今の市長が言い出しているようです。
　これにはいささか疑問がありますね。
　『給料カット・退職金ゼロ』聞こえは良いのですが…
　これでは本当の意味での人材は確保できないでしょう。
　大金持ちか裏金稼ぎが上手いかでないと名誉職は勤まりませんからね。
　議員報酬でもそうですね。自営業とかの仕事で自分が離れてもやっていける人以外は、４年ごとに身分の保証のない議会議員職に飛び込めませんよね。まして、子育て中の年代となるとねえ…

一見、市民受けのすることですが、正当な算出基準があるのなら…そして、市民が手弁当で選挙をしてあげる、政策と人物で選ぶところまで成長していないのなら、尾鷲のスタンドプレーは決して自治体の将来にプラスになるとは思えませんね。

四年で千万とかの話でしょう。

それをケチって、将来まで人材を無くすとしたら・・・

Tags:熊野市 昭和 モノクロ　尾鷲駅前　　by **je2luz** | 2008-09-02 12:10

2008 年　09 月　03 日

熊野の旅　隣町　尾鷲　電源立地

隣りの尾鷲市は旧尾鷲町を中心に昭和の大合併で周辺の村を吸収して三万人越えでいわゆる『新市』となったものです。

尾鷲湾の奥にある中心部に人口も色んな機能も集中した形態の市です。

三方を山に囲まれ、イヤ…ほとんど四方を山に囲まれ、場所によって、ほんの少し外洋が見えると言うような天然の良港にあります。

従って、少し大きな船も付けよいし、荒れるときも少ないので、遠洋漁業の船も入る大きな漁港になっています。

そして、この良港と言うことを見込んで、大きな火力発電所が立地しています。

国道４２号線で北からであろうと南からであろうと尾鷲に入ると、まず眼に飛び込んでくるのはその巨大な煙突です。

中部電力・三田火力発電所です。三田は「みた」と読みます。

尾鷲には北山川から分水した水力発電もあり、街中を放水路が走っています。
火力発電所に付随する形で、石油基地まであって、巨大な備蓄タンクも並びます。

企業とか発電所とかを誘致し、港を整備すれば町が潤い、夢のような暮らしがある…と言われ、今でもそう思う節があります。
それを言うなら、尾鷲市なんて狭い市街に、遠洋漁業まで扱う漁港があり、発電所があり、石油基地まであるのですから、市民はすごく楽なはずなんですがねえ…
確かに、一時期、尾鷲市は熊野市よりずっと財政が楽でした。
中部電力と下請け会社で発電所の職員をどっさり連れてきました。
町中に社宅があり、結構まともな月給取りが住み着いてくれたから、商店街も潤ったものです。
金遣いの荒い遠洋の漁師、安定収入のあるサラリーマン…
町中が賑わった時期もあります。
さらに、発電所があると、迷惑料代わりの『電源立地交付税』なんてのが結構高額降りてきます。
中電も、何かあっておねだりに行けば、これまた迷惑料代わりに大金を寄付してくれた物です。
こんな風に金が豊かに入ると使い切るのが『行政』なのです。
ほぼ同じ規模の自治体に比べ職員数も増えます。
これは、当年度主義の予算で動くシステムだと、ほんの少し『財政調整基金』などに積み立てるだけで使いきらなくてはならないと信じているお役人なら当然なのです。

しかし、発電所なんかの税金で大きなのは固定資産税のほかにある『償却資産税』なんてどんどん減ってゆく物なのです。
膨れた財政、減り行く税収・・・
更には、技術の進歩で、うじゃうじゃ人間が居ないと動かせなかった発電所もコントロールパネルの前にぽつんと人を据えれば良くなってしまいました。
点検業務なども徹底的に合理化しました。
尾鷲の町から発電所関連の人間がほとんど姿を消しました。
何百人もの安定した月給取りが消えたのです。
商店街も飲み屋もさっぱりになりました。
こうして、大きな発電所まである、小さな町が追い込まれていったのです。役所の職員数も当然減らしています。

原子力発電ほど危険もない代わり、『口止め料』『危険手当』的な交付金も少ないです。その口止め料、危険手当のある原発の町でさえ、膨れた財政、減り行く税収の図式から、原発の増設にどんどん応じていますね。
尾鷲も閉じ込められた地形で、排気ガスの問題もあるのですが、三号機まででしょうか、増設しましたね。しかし、消費地からこんなに遠い所に『火力発電所』を作ったこと自体が不思議なのですし、もはや中電も関心はないでしょう。

財政豊かな頃に作った『市民病院』もかつては三重大から医師が派遣されていたので、赤字とは言え運営出来ていたのですが、ここに来て例のごとく『医師不足』に見舞われ、マスコミでも騒がれたように二千万を越す給料を出すことに…それでも確保は出来ないし…
第一、新任の医者にそれだけ出したら、今居る医者も黙っていませんでしょうしね。
病院を締めるわけにも行かず・・・

何だかんだで、上手く行くはずだった理想的な街づくりが追い詰められています。
夕張なんか見たいにお夢追いで追い詰められて行った訳では無いのですがねえ…
とはいっても、今でも熊野市よりは税収は上のはずなんですがね。

Tags:国道４２号線 昭和 モノクロ　尾鷲三田火力発電所　by **je2luz** | 2008-09-03 11:34

2008 年　09 月　04 日

熊野の旅　負の遺産

以前に『木本事件』とか『いるか・ボーイズ』の事を書いたことがあります。
ともに、戦前から戦中に掛けての強制連行や捕虜などによる強制労働が招いた悲劇です。

『木本事件』は旧国道に残る『木本随道』の掘削工事中に起きた地元民による朝鮮

人労働者の撲殺と言う痛ましい物でした。噂の流布による行き違いが事態をこじらせ、群集心理も手伝って止めようのない事件になってしまったものです。

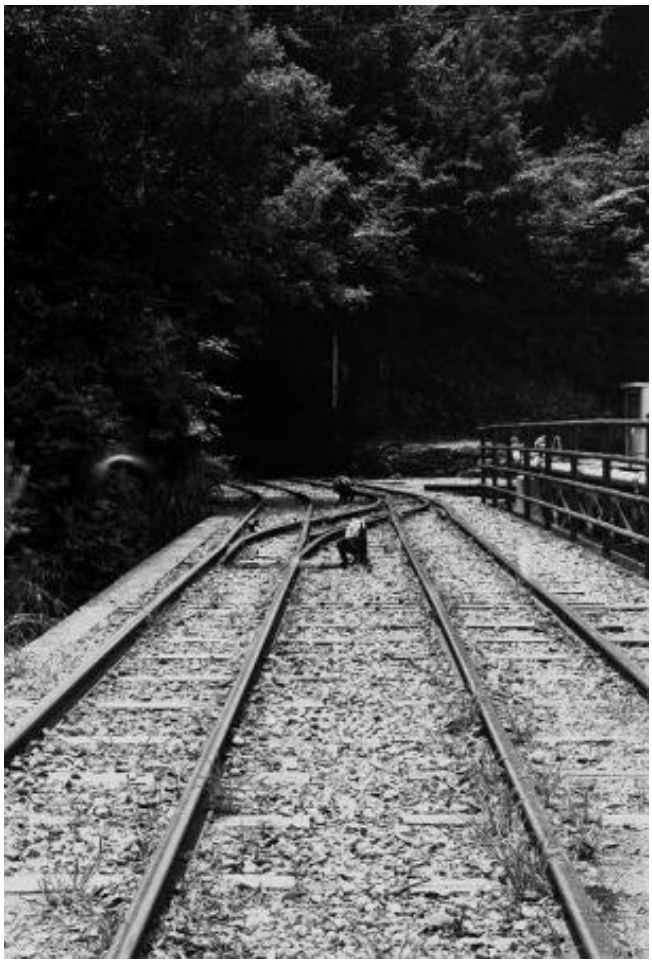
『いるか・ボーイズ』はイギリス軍捕虜が紀和町の入鹿鉱山に収容され、強制労働させられたもので、終戦後、生存者は母国に帰還できましたが、この地でなくなられた兵士も居られた物です。

この二つは、曲がりなりにも遺族の方などと地元との強力で『慰霊碑』も建てられています。
事実は消える物ではありませんが、慰霊とともに、こうした痛ましいことがあったと言うことを後世に伝える手段にもなっています。

こうした事例の中で、この『入鹿鉱山・紀州鉱山』における、強制労働の犠牲者の中で、朝鮮半島からの人たちのことが置き去りにされてきたようです。
同様のことは、北は樺太から南はルソン・ボルネオまで、鉱山・油田・軍需工場のあるところでは無数に近いくらいあったようです。
現熊野市紀和町の『紀州鉱山』は軍需資源で大切な『銅』を産出するところで、大々的に動員され採掘されただけに、犠牲者の数も多かったものと思われます。
こうしたことの後日調査では、敗戦時に証拠隠滅で書類を焼いたり、散逸したりして実態が分からない場合が多いようです。
強制連行では、元々どこの人間かの確認すら取らずに連れてきた例もあるようですし、『創氏創名』で日本名にして登録されているので追跡できないなどひどい状態のようです。
軍人台帳のあった戦死者でさえ、半島出身の人の中には身元が分からない人が居るようですからね。

『入鹿鉱山・紀州鉱山』でも、朝鮮半島からの労働者の慰霊碑を建てる動きが出ているようです。
南北分断と言う複雑な情勢がこうしたことことでも足かせになってくるのですが、それを超えての動きのようです。
ただ…
こうした時に、行政はあまり力を貸せません。
土地の世話をするとかの無形の協力は出来ても、予算処置などは憲法の規定に触れる恐れがあるからです。
戦没者の慰霊碑・慰霊祭でもほぼ半数は違憲判決が出ていますからね。
『木本事件』の件では、有志による寄付・社会福祉協議会による寄付などと言う形を取りました。
しかし、ご遺族の方の団体の内輪もめで宙に浮いた経緯もありました・
今回は『総連』と『民団』が協力するとかですから、スムーズに行くでしょうし、スムーズに行ってもらいたい物です。
『入鹿』だけではなく、おそらく『那智』などの鉱山でも同じようなことがあったのだと思います。

中国で戦死した親父、ビルマで戦死した叔父、沖縄で戦死したおばの夫…一人も遺骨は帰りませんでした。
この人たちは日本人です。
帰りたかったでしょう…
しかし、自分の国のやったことです。
自分の国のためでもなく、異国の地で命を落として…軍人ではないので恩給もなし･･･身元すら分からない…
この負の遺産はなくならないものです。
せめて、霊を慰め、平和を維持することだけでもやらなくてはならないでしょう。



Tags:熊野市 紀和町 モノクロ　　by **je2luz** | 2008-09-04 11:59

2008年　09月　05日

熊野の旅　熊野灘　第五福竜丸

海と言う物は条件次第ではものすごく怖いものです。
陸に居ても高潮や高波・津波では登ってまで襲ってきます。
砂を運んで島を作るかと思えば、休みなく陸地を削って自分の領域を増やそうとします。

日本近海には、『灘』と言われる所が沢山あります、
『灘』は字のごとく、『さんずいへん』に『難』と書くくらいです。
当然、航海に危険が伴うと言うことです。
海上保安庁の水路図誌にも鹿島灘・相模灘・遠州灘・熊野灘・播磨灘。備後灘・燧灘・安芸灘。周防灘・伊予灘・響灘・玄界灘・天草灘・日向灘の１４箇所が乗っているようです。
意外と瀬戸内に多いのは塩の満ち干による潮流の変化と流れの速さによるのでしょう。
熊野灘は黒潮の流れと、直接太平洋に面していることでの台風の余波などが航海を危険な物にしているのでしょう。

この熊野灘は神話の時代の『神武東征』の時の二木島における遭難以来、ずっと、遭難の繰り返しでした。
江戸時代なども、風をよけて避難しようとした船が座礁した記述が沢山あります。木船ですから、『船が割れた』などと書かれたものもあります。

そうした沢山の遭難の中で、沈んだ時にはほとんど話題にもならず無名の船だったのに、引き上げられるようになってから、一躍有名になったものもあります。
『第三千代川丸』と言う船です。
船が有名ではなく、そのエンジンが歴史資料として価値があったのです。

１９５９年（昭和３４年）米国の水爆実験でマグロ漁船の『第五福竜丸』が被爆し、船員の方々が戦争外の被爆者となり、無線長の久保山愛吉さんが放射線障害でなくなられたのです。
その『第五福竜丸のエンジンが１９６７年（昭和４２年）に買い取られ乗せられたのが、この『第三千代川丸』だったのです。
この悲運なエンジンは１９６８年（昭和４３年）に熊野灘で座礁し沈没したのです。
その場所は隣町、御浜町阿田和沖になります。
岸のすぐそばにしか船が座礁するような岩礁は無いのですが、沈んでしまいました。

そして、長く海底に眠っていたエンジンは１９９６年（平成８年）に引き上げられ、元の『第五福竜丸』のそばに戻され、今は東京・夢の島で展示されています。

もはや、『ビキニ岩礁』『水爆実験』『第五福竜丸』『久保山愛吉』『被爆マグロ』などと言う言葉を知っている人も減ってきました。
本来は知っているはずの年代、60 代以上の人も『忘れた』状態でしょう。
引き上げられた時もほんの少し報道されただけで、いわゆる、トピック扱いで、『原水爆反対』とか『平和運動』に結びつくような物ではなかったですね。
確かに、鉄の塊のどでかい旧式のジーゼルエンジンに過ぎませんが…

この辺でも、このことはすっかり忘れられているようです。
本当は困ったことのはずなのですが…
暗いネタがいやなのも分かりますがね。

Tags:七里御浜 昭和 モノクロ

by **je2luz** | 2008-09-05 12:17 |

2008年 09月 06日

熊野の旅　幕末の熊野

江戸からは遠く、京都・大阪からも遠く、大勢の兵をかき集めるほど人は居らず、交通の要衝でも無し…
これは平成の今も変わりはないわけですが、江戸末期の混乱期もこの辺は余り大きな動きもなく過ぎて行ったようです。
それでも、『将軍』の名前が出てくる文書があるようです。

文久3年（1863）2月に『将軍家茂』が軍艦で上洛のため、21日に江戸表から乗船され、奥熊野須賀利、三木浦等に碇泊の予定なので、帯刀人ら18日までに木本代官所に詰めるようにとのお達しが飛脚便で来たようです。

今でも、『神宮』(伊勢神宮）に天皇陛下とか総理大臣とかトップがお参りになると、三重県では端っこの『紀宝署』（旧鵜殿署）まで、特別警戒態勢になりますが、それ以上に天下を動かすはずの将軍様が動くとなればこうした警戒配備がなされたのでしょうね。

それにしても、紀州藩でもこんな端っこだと、武士が配属されていないので、帯刀を許された郷士などをかき集めて兵力を確保したのですね。

まさにこの時代、今年の大河ドラマ『篤姫』の時代ですね。
きな臭いにおいのする船がこの沖を掠めて通っていた時代です。
この前の年に、以前にも書いた安政 2 年（1855）の紀州藩分藩・村替え騒動のときに木本を紀州本藩に戻すために尽力された『吉田庄太夫』の恩に報いるため、木本神社に『吉田大明神』が祀られたのだそうです。

また、この幕末の時期にはこの辺には日本狼が生息していたようです。
日本各地でもそうだったようで、『狼』は恐れられるわりに嫌われては居なかったようです。
文久 3 年（1963）1 月に大又村（現・熊野市飛鳥町大又）の落とし穴に狼が一匹落ち込み、大勢して引き上げて放してやった・・・と言う日記の記述があるようです。
おそらく、猪を捕るはずの落とし穴に狼が落ちたのでしょう。
いくら賢い狼でも猛獣ですから、救ってやるのも大変だったでしょう。
こうして守られていた狼も、明治以降に蔓延した狂犬病などで絶滅したと言われています。

動物検疫がいい加減になっている今のへんてこ動物のペットブームは何を引き起こすか分かりませんね。
町中の我が家に庭にでも生き延びている『トカゲ』なども、輸入の爬虫類についてくるかもしれない病気で知らない間に居なくなるなんて事態も起きるかも…
へんてこりんな、文明開化？？？が進行中ですからね。

Tags:熊野市 モノクロ

by **je2luz** | 2008-09-06 12:45

2008 年　09 月　07 日

熊野の旅　熊野市報 9 月号より

今月の人口動態の数字はものすごいです。

取り立ててインフルエンザや疫病が流行った訳ではないし、人事異動や企業の閉鎖があったわけでは無いのですがねえ・・・

人口	20.772	（－61）
男	9.698	（－34）
女	11.074	（－27）
世帯数	10.138	（－27）

平成 20 年 8 月 1 日現在

限界集落ですと、限界を超えると一気に減少速度が上がるのですが…

今の人口は、一昨年ですか、南牟婁郡紀和町と大規模合併失敗の残骸合併をする前の熊野市の人口に近づいて来ています。

まあ、一ヶ月 60 人ほどの人口の増減など小さな数字なのですが、元の分母が小さいですし、『＋』と言うものが無くてひたすら『－』へ進むのですからね。

この人口の急減は取り立てて死亡者が多かったわけでも無いのです。

ひょっとして…このあたりでは4人か5人に一人が対象になる後期高齢者医療保険なんて物の影響ではないでしょうね。

どっちにしても、皆さん、家屋敷を持っている人が多く、健康保険に都会ではありえない『資産割』と言う加算部分があり、国民年金の 6 万ほどしか収入のない人でも、国保税が 30 万とか当たり前の町ですから、都会に転出する方が楽なんですよね。

形だけでも息子の同居扶養家族になるとか・・・

私もそうすれば自分の生活費程度浮いてきます。

書くのもしんどい話ですが、今月の出生数は 4 人ほどです。

市立保育所の募集要項が載っていますが、総定員は 206 人だそうです。

1 歳児から 5 歳児まで預けたとして、一学年 40 人です。

全部預けに来ると足りないってことなんでしょうね。

もっとも、中心部の保育所の定員は、うちの子供の頃よりうんと減っていますが…

以前に組合とかの協力を得て実施に踏み切った『延長保育』（18：00 まで）も当初の有馬保育所のほかに木本・井戸・板屋の三箇所が増えています。

子供を預けて働く環境は以前より随分改善されています。

しかし、働く場所はメリヤスだとかハーネスだとかと言う手作業の下請工場が無くなってからは、ほとんどありませんね。

三重県立木本高等学校定時制が後期科目限定聴講生の募集をやっています。

これは、定時制高校の授業を聴講生として受けるもので、現代文・国語基礎・地理 A・数学 II・理科基礎・体育・書道 II・英語 II・情報処理の科目があります。

受講料は一科目 1640 円（半年分）で実習料の必要な物もありようです。

受付は　9月16日～26日
問い合わせは　0597-89-6244
あちこちである、市民講座だとか市民大学校などの授業よりはまともではないかと思います。
いつ閉鎖されるか分からないほど生徒数の減った定時制高校の営業努力のひとつです。
いかがですか？定年後の暇つぶしに、昼間は熊野古道歩き、夜は定時制高校で勉強・・・
ボケ防止には最適かもです。

Tags:熊野市 熊野古道 モノクロ　　by **je2luz** | 2008-09-07 12:30

2008年　09月　08日

熊野の旅　県政だより　みえ

どこの県でも発行されているのではないかと思いますが、三重県でも、表題のような広報誌、『県政だより　みえ』が毎月発行されています。
これは、熊野市の『広報くまの』や『社協だより』などと一緒に配布されてきます。
大体において、こうした広報誌と言う物は読まれない場合が非常に多いものです。
金を取って配布するのであれば、購読者は地元の広報誌で１割もあればよいでしょう。まして、県単位の広報誌となれば数％あればよい方かも知れませんね。

市町村の役場に比べ県庁と言う物は普通の市民には縁の無い役所の感じですからね。おまけに広域なので、熊野市や南牟婁郡のような三重県の辺地に住んでいると一生に一度も県庁に行ったことが無い、建物の姿さえ見たことの無い住民がほとんどでしょう。

私はブログのネタ探しで毎月、市報も県報も最近は眼を通しています。
市報のほうでは毎月一日か二日分のねたを貰っています。しかし、県報のほうでは全くと言ってよいほどネタが拾えません。
大きな介護保険の変更だとか言う欄は県民共通なのですが、広報誌の大きな部分を占める、イベントとか講演会だとかのお知らせに関しては、『於　熊野市民会館』だとか『場所　南牟婁郡御浜町・中央公民館』なんてのはほとんどお目にかかりません。
三重県の県庁は南北に長い三重県のちょっとだけ北よりにあります、北に向かって80Km ほど、南に向かえば 150Km ほどでしょうね。
でも、県庁所在地の津市とそれから北方面の衆議院旧三重県一区と南の三重県二区ではまるで人口は違います。
その二区でも大きな町は津に隣接した松阪市と平坦な道でつながる伊勢市になり、それ以南の人口なんてどうでもよい程度なのですから仕方ないのでしょうし、こちらでやったら、文化講演会などもよほど面白い有名人が来るか動員を掛けるかしないと人が集まらないでしょうね。

今や人口の都市集中が進んでいるので、色んな話が都会中心で話されます。
私の趣味のカメラ、写真のほうでも、ネットで見ていると、『〇〇先生の写真展で生プリントを見て勉強しなさい』だとか『ビックカメラやヨドバシの店頭にあるでしょう』『街角のプリント取次ぎ所に預ければ…』などと平気でアドバイスしています。
東京周辺だけで人口の２割ほど居るのですからそれもありでしょうが、それでも人口の何割かは私のように、ネオンまたたく大都会まで 180Km なんて田舎に住んでいるのです。

三重県の行事すら見放すような辺地に『〇〇先生の写真展』が来るはずもなし（来ても見に行きませんが…）、何十年も前に現像薬など売る写真屋が無くなった町に『ビックカメラ』どころか『キタムラ』も来るはずもなし…
と言うことで、せっかく配ってくれる『県政だより　みえ』なのですが、ネタにもなりません。

熊野市一万所帯のなかでどれだけの人が、この『県報』に眼を通すのでしょうね。
いやいや、県報とか官報なんて物は、『眼を通すのが県民・国民の義務』なのです。
読まない私たちが悪いのです。
知らなかったでは文句も言えないのです。
『大切なことは広報誌・官報でお知らせしてあります』…ということですからね。
皆さんも、これからは、各種広報誌を読んでください。
官報は大きな図書館に行けばあるのではないでしょうか？
あとは、役所の総務課あたりには来ているでしょう。
せっかく税金で作って無料で配布してくれているのですからね。
それに一割や二割が断っても、予算は一円も減りませんから・・・

Tags:熊野市 モノクロ　　by **je2luz** | 2008-09-08 11:33

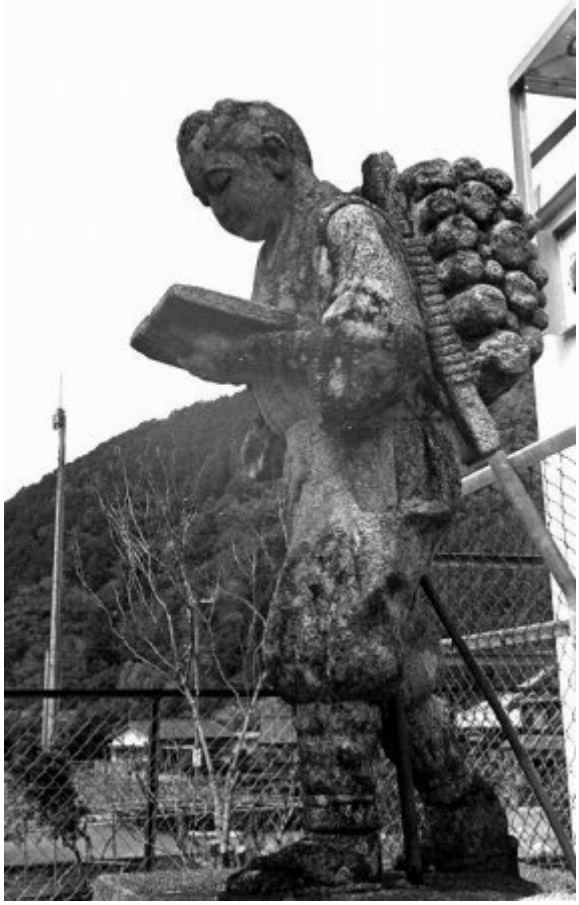
2008 年　09 月　09 日

熊野の旅　百年前　熊野市　小学校令

今から１００年前、１９０８年は明治４１年になります。
文明開化が始まって 40 年を経過して、日本の近代化も全国津々浦々まで広まっていった頃です。

この年の大きな出来事は、『小学校令改正』に伴って、学校の制度が大きく変わったことです。
この年から、小学校…『尋常科』・『尋常小学校』が６年制になっています。
『高等科』・『高等小学校』は二年になり、義務教育分を延長したわけです。
このきっかけは、『学力低下』が懸念されたからだそうです。

二年の尋常科の延長は、全国の小学校の校舎増築ラッシュを引き起こしました。
その当時では、村々の予算の他に地元の寄付が無ければ校舎は立ちませんでした。
しかし、全国津々浦々、当時の日本人は子供の教育のためなら、自分の家に子供が居るとか居ないとか関係なく、『教育のため』と言えば、食べ物を削ってでも寄付をしたものです。
全国の小学校の学校史にはこの年号はでてくる物です。



もう一つ・・・

この頃、秋田材・遠州材・外材などに押されて、『紀州材』は東京の市場から撤退せざるを得なくなった…と言う話があります。

１００年前にこの辺の材木は一度危機を迎えたわけですね。

大正から戦争が激化するまでの間、紀州材の行き先はほとんど『大阪』でしたが、そうした流れを受けての話だったのでしょう。

陸路、鉄路が出来てきても。重くてかさばる材木の輸送は船に頼っていました。

『船』と言うやつは、小さく見えても、貨車１０両分とか軽がると摘んで行きますからね。

岸壁も無い熊野などは、波の静かな日に、はしけ（伝馬船）を使って積み込んでいました。頭の上に材木を乗せて、『いただき』と言うスタイルで運ぶのは『おなご』の仕事でした。

実家の方にはこの風景を写した写真があるはずなのですが…

そして、今は紀州材ではなく、全ての国産材が外材に追われ…

Tags:熊野市 モノクロ 歴史

by **je2luz** | 2008-09-09 11:55

2008年　09月　10日

熊野の旅　１５０年ほど前　熊野　大地震など

昭和の南海・東南海大地震から５０年を越えました。

５０年から１００年とか周期で割合と頻繁に大地震を起す震源地が目の前にあるので、郷土史にもやたらと地震が出てきます。

それに、近年は温暖化からか台風の進路が少しずれたので、紀伊半島南端が『台風銀座』から外れたようですが、元々この辺は『台風銀座・四丁目が五丁目』だったので、『大しけ』も多いですね。

安政元年・１８５４年の６月に二回の大地震があり、１１月にも４日と１５日に大地震があったそうです。

被害

大泊　民家流失　　１５戸　　８５戸半壊

新鹿　民家流失死者　　多数

遊木　民家流失　４５戸　死者７名

二木島　　無事民家２８戸のみ　死者２３名

甫母　殆ど民家流失

波の高さ10mに達する

だそうです。

人口や民家の少なかった江戸時代でこの被害です。

この被害は昭和の地震もあまり変わらないようです。

伊勢湾台風のときも同じような図式で高潮にやられています。

もし、平成の東南海大地震が起きればそんなに変わらない被害が出るのでしょうね。

各地の郷土史の中にはこうした災害の記録が驚くほど正確に記載されている物です。

今の役所のように、係りが代わったから分からないとか、保存期間が超えたので全部廃棄したなんてことは無いですからね。ここの川のどこが切れてどこまで浸かったとか、火山の噴火でどこまで灰が降って何人死んだとか…

新興住宅地でも昔の農地などの被害から推測できる被害が多いのです。

しかし、こうした歴史は行政にはもちろんですが、実際に生活している地元民にも生かされていませんね。

もちろん、千万単位でお金をもらう『コンサルタント』なるよそ者などは、頭の片隅にも入れずに、アセスメントや災害予想を作り上げてくれます。

実にもったいない話です。

自分の住んでいる地域のことに疑問を持ったら、市役所などより図書館の古文書の方が真実を教えてくれるかもしれませんよ。

どうして、旧家や古い町並みが日当たりの悪い場所に固まっているか・・なんて不思議なことがあるとすれば、災害の歴史が教えてくれる物です。

Tags:熊野市 昭和 モノクロ　　木本脇の浜　　by **je2luz** | 2008-09-10 13:5

2008 年　09 月　11 日

熊野の旅　二百年ほど前のこのあたり

今から２００年ほど前の記録を見ても、台風やら火災やら災難の記録が多いですね。

ちょうど２００年前の文化５年（1808）の記録に、『７月２５日大時化（おおしけ）、奥有馬で人家３０吹き崩れ、産田社の杉７０本倒れ・・・』とあります。

７０本もの杉が倒れたとなると、産田神社の境内は明るくなってしまったものと思われます。

今の産田神社の杉の木にはこの跡に植林された物もあるはずです。

現存する入り口の巨木はこれより年をとっているようですし、該当するような大きさの木があまり見受けられないような気もします。

この時代の記述に出てくる有馬とかの庄屋とか役付きの人の苗字は今でもその地区に残っていますね。速水・山門・南などですが、武家は無かったはずなのに、やたらと『苗字』のある家が多いです。他の地区の庄屋などは名前だけなのに・・・

物見高いは人の世の常なのでしょう。

文化１３年（1816）３月２２日に『南京船二木島に入津、５０００石積、長さ 21 間幅８間、深７尋、船長高聖天、見物人山の如し、４月２日出帆し、同日浦神に入津』とあります。

この通りだとすると全長４０メートルほどの巨船ですね。

今でも二木島は国道３１１号線で出かけるのは遠い感じで、テレビでまで放送され

る『二木島の船祭り』には中心部の木本の人はほとんど行ったことがないくらいなのに…
　今の世界遺産・熊野古道の松本峠・大吹峠等を超えて腰に握り飯かめはり寿司でもくくりつけて、春の遠足よろしく出かけたのでしょうね。
　１０日も居てくれたらしいですから、目先の利く人は、見物客にお茶を出したり、見よい場所に筵を敷いて席料を取ったり、芋をふかして売ったり…結構稼いだでしょうね。
　今でも、新宮港に帆船が入ったり、客船 ASUKAII が入ると見物人が押しかけるのですから、娯楽の少なかった頃には大変な話題だったでしょうね。

　この頃の熊野への巡礼者は年によって変動がありますが１３０００人台から１８０００人台くらいで推移しています。
　この数字って大きなものですね。
　全部徒歩で、宿泊付きの旅行ですからね。
　ゴミとおしっこだけ残す今の熊野古道歩きの『観光客』とは違いますからね。
　そして、その心根も、本当にご利益を信じ、熊野の山々に神や御仏を感じながら歩いた『巡礼』ですからね。

Tags:熊野市 熊野古道 モノクロ　　産田神社　　by **je2luz** | 2008-09-11 12:10